

幸支部長 市 野 典 明 (S52 年卒)

神奈川県を“東を向く子犬”に例えるなら、川崎市はその頭部から鼻っ面に位置し、北は多摩川を隔てて東京都に、南は横浜に接し、東西に細長い市です。そして幸区は、川崎区と中原区との間にあり、多摩川と鶴見川本支流に挟まれた川崎市の中でも最も小さい区であります。JR の川崎、尻手、鹿島田、新川崎の 4 駅を立地しています。中でも、川崎駅は東海道線、京浜東北線、南武線が乗り入れ、川崎市の拠点にもなっています。その東海道線は、細長い川崎市域の中でも最も狭い部分を通り、その距離は僅か 1.2km であり、幸区と川崎区の境界線にもなっています。また、横須賀線の新川崎駅は、湘南新宿ラインが乗り入れるようになり、随分便利になりましたが、駅から見える加瀬山は 50 年前と変わらない姿を見せています。元々起伏の少ない平坦な土地ですので、標高 35m の丘は幸区のシンボリック的存在であり、現在は「川崎市立夢見ヶ崎動物公園」として市民の憩いの場となり貴重な自然環境とも云えます。その反面、唯一、土砂災害警戒区域に指定されてもいます。子どもの頃、加瀬山から見える景色が、西に夕焼け、東にも工業地帯の夕焼けが見えていたのを覚えています。そして、そこから見える新鶴見操車場は、幸区を 2 つに分け、地域の交流や交通に不便をきたしているのは、今も昔も変わらない風景です。勿論、東海道線の通勤混雑緩和のために横須賀線が新鶴見操車場校内を通るように

なり、新川崎駅が開業したのも事実であります。また、隣の武蔵小杉駅（中原区）周辺では、再開発による新しいまちづくりが進んでおり、高層ビルが幾つも建っているのがよく見えます。

現在、幸区には、川崎市立高等学校 2 校を含む、小学校 13 校、中学校 5 校の合計 20 校があり、幸支部は、校内会員 47 名、校外会員 52 名により構成されています。平成 28 年度の幸支部総会は、9 月 9 日（金）に川崎駅西口の“よしもと”で行われ、来賓として、県友松会より芦川会長、川崎市友松会より渡部様を迎え、総勢 13 名で総会、研修会、懇親会を開催しました。研修会では、御幸小学校 鈴木和弘校長による『「育成すべき資質能力」の捉えと指導について考える』と題した講演があり、次期学習指導要領を見据えた課題について実践を通じた丁寧な説明があり、よい研修となりました。また、懇親会では、参加者全員が近況を報告しながら和やかな歓談の時間を過ごし親睦を深めました。



懇親会記念写真